

第1回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成17年9月26日（月）

午後1時30分～午後3時

場所：中央公民館第1会議室

- 事務局：各委員・アドバイザー・事務局職員の紹介
- 事務局：それでは、当委員会に委員長を選任いたしたいと存じます。どのようにとりはかったらよろしいでしょうか？ご意見がございましたらお願いいたします。
- 委員：雨宮先生にお願いしたらどうでしょうか。
- 事務局：今、雨宮先生というご意見がありました。よろしいでしょうか？それでは、雨宮委員さんに委員長をお願いしたいと思います。おそれいりますが正面の委員長席にお付きください。
それでは雨宮委員長さんにご挨拶をお願いいたしたいと思います。
よろしくお願いいたします。
- 委員長：事前にですね、事務局の方とお話をしまして、新湊まちづくり戦略会議が、ただ従来の審議会だとかお役所まかせにするようなただ言いつばなしということだけの会議だったら、私は嫌だと。やはりこういう時期にはですね、やっぱり新湊の一定の方策の方向性が定まって、まちづくりというものが、進む為にはですね、ここに集まった方々が、色々な意見を言うとともに行動を起こす。そして自分の範囲以外のところだと、あの人に頼んだらどうかというかたちです。ですね、盛り上げていくような会議になれば私は大変やりがいがありますということをお願いしたところ、まあできたらそういう方向が一番いいということで私も委員にさせていただきました。委員長という立場でどこまでできるかわかりませんが、気持ちとしては、そういう形でいきたいと思います。
その私自身そう申し上げる背後にはですね、新湊への思い入れがあるわけです。
富山商船高専に1970年からお世話になりました。海老江に住んでおりました。そんなところから港ができるあの港口切断の大騒ぎを演じたところから、私は新湊と関わりがあります。
そしてその後、海王丸の誘致運動でもいろいろ動かしていただいたわけです。さらに、港が充実していく、そしてさらにあの港口切断の時、約束した橋もできる。新湊にとってはですね、日本全体から見ると日本海側から見るとこんなに多くの国民の税金・資産が集中的に投下されているところは、あまりないのではないかと、ただ投下されているだけではなくてですね、背後地の企業もかなり私は

成功している方だと思います。

あとは、残されたものが「まち」なんですね。21世紀のまちにふさわしいように活性していくという、これがひとつ皆さんに残されている部分かと思います。

そういう意味では、ここにお集まりのそれぞれの方々の意見を出して今すぐにでも実現できることは我々の力でやっていくと。どうせ市にもお金はあまりないでしょうし、県も国にもどうもあまりもうないと思います。ですから、人に頼るんじゃなくて自分たちの住んでいる場所、私は11月1日からおそらく射水市民になりますので、その住んでいる場所にもいろいろな力を出してですね、自分達の住んでいる場所に同意するような、できるような、そういうような会議に私は、持っていければなと思っております。

題して「まちづくり戦略会議」というものすごい名前になっておりますので、どうぞ委員の皆さんいろいろなことに縛られずにですね、自由に意見を出して、ぜひいい「みなとまち」ができるようにご協力をお願いします。

そういう意味では、自由に意見を交換できるように、そして自由に行動もしていく、そしてそれぞれの組織が背後にあった場合は、その組織を動かしていけるような、そしていよいよ困った事があつたら、また役所の方に相談するなり、うまくこのまちが動いていけるようにどうぞ会議がうまくいきますように、そして活発になるようにご協力をお願いします。

事務局：それでは、雨宮委員長さんの進行によりましてただいまから、会議を進めてまいりたいと思います。よろしくをお願いします。

雨宮委員長：それでは、進めたいと思います。今日は、第一回ということでですね、まず、さっとこのまちづくりについての、今までのおさらいということが必要かと思います。

それで、皆さんのところにお配りしている資料に関してですね、事務局の方から説明をしていただきます。そして、その後、意見交換の時間を10分くらいは取りたいと思っております。で更に、今日は天気がいいものですから、最後の一時間ですね、やはり現場を見てイメージを作っていく、そういうことにして、第二回からですね、そういうものに基づいてそれぞれこうしたらいい、ああしたらいい、これができるというようなものが皆さんの委員の頭の中にですね形成できるような機会に、この2時間半をしたいと思っておりますので、そういう順序で進めて行きたいと思っております。じゃ、今までの定義・経過といたしまししょうか、それをお願いします。

事務局：それでは、まず新湊の現況というものを皆さんご存知かと思いますが、説明させていただきます。

皆さんのお手持ちの資料にもございますが、こちらの画面にも表示

されておりますので、こちらのほうでご説明申し上げたいと思います。

まず、新湊市の人口の推移でございますが、平成6年当時、新湊市においては、3万9千人あまりおりましたものが、平成16年には3万7千人になっております。減少傾向にございます。それで、中心市街地、赤のラインになりますが、それにつきましては中心市街地ということで、放生津・新湊地区ということで、17,100人あまりだったものが、14,331人ということで約2,700人減少しており、平成6年当時に比べて16.2ポイントほど減少しております。それで、人口の推移の地区別でございますが、青の部分が減少傾向の著しい所でありまして、今、言いました放生津・新湊地区いわゆる中心市街地の部分になっております。あと、一般的に申し上げますと、東側、画面でいいますと右側の部分で、赤い部分・黄色の部分が、市でいう東側の部分が増加傾向にございます。次に高齢化率の推移でございますが、市としましては、まず県の平均よりも1ポイントほど高くなっております。それが、青いラインであります。新湊市は、青いラインで23.7%、平成16年で23.7%となっております。それで、中心市街地、赤のグラフなんですけど、これにつきましては、これよりもさらに約4.5ポイントから5ポイントほど高くなっており、中心市街地の高齢化というものは、著しいものとなっております。それで各自治会、一部の町内会では、高齢化率が4割の所もございます。

次に、市民購買動向と推移でございますが、平成2年につきましては、ピンク色の部分が市内の購買、日用品等を主にどこで買うかということで、市内というふうに約半数の方が答えられております。それが平成14年には約一割強、一割余りの方しか市内で購買していないという状況になってきております。でそこには、市外、もしくは郊外の大型店等で買い物をされているということが考えられます。それでは、どこで買っているかということでありますが、まず一番目には高岡市、近隣都市ということで高岡市について富山市続きまして小杉町、そして新湊市、大島町などになっております。

次に、観光入り込み者数の推移でございますが、これにつきましては、年間約150万人前後の方が市内に訪れているという状況でありまして、そのうちの二割が県内の方になっております。

続きまして、観光入り込み者数の推移で日帰り客か宿泊客かということでございますが、黄色の部分はほとんど見えないんですけど黄色の部分が宿泊される方、青の部分が日帰りということでほとんどの方が、日帰りという状況にあります。

次に、海王丸パークということでございますが、年間70万から80万人の観光客の入り込み者数がございます。これにつきましては

は、市内はもちろん県内でも有数の観光スポットとしてまた憩いの場としてその地位を占めております。

施設・イベント別の観光入り込み者数の割合ということで、平成15年度の今ほど申しあげました海王丸パークが約半分以上占めております。ついで道の駅「カモンパーク新湊」あと県民公園、新港の森、あとイベント関係で新湊産業海鮮まつり、新湊曳山まつり、富山新港新湊まつりなどが続いております。

続きまして、基幹交通ということで、ご説明してまいりますが、まず、伏木富山港の定期コンテナ航路といたしまして、4つの定期航路をもっております。ロシア方面と東南アジア方面と中国方面、韓国方面に4つの定期コンテナ航路をもっております。

続きまして、外貿のコンテナ貨物量の推移でございますが、これは、輸入輸出ともに増加傾向でございます。

続きまして、北陸新幹線の開業でございますが、これにつきましては、今、建設中でありまして、平成26年度末には、北陸新幹線が、富山にというか開通するというふうになります。それで、東京へは2時間余りで行くことができます。逆に言えるのは、同じ様に東京・関東圏域から2時間で富山を訪れることができるというふうなことが言えるかと思えます。

次に、東海北陸自動車道の全線開通ですが、これにつきましては、19年度中に開通するというので、これができますと名古屋へは、約2時間30分で行く事ができます。逆に名古屋からも2時間30分で富山の方へ訪れることができます。一応ですね、これらは大きな転機となります。こういった交通網の整備につきましては、大きな転機となります。それをちゃんとして捕らえアクションを起こしていく必要があるかと私どもは考えております。

次に、航空機によるアクセスということでございますが、富山空港の定期国際便については、この程、上海便が新たに10月に開設されるということで、国際便につきましては、4便国際便があるということになります。

続きまして、(仮称)新湊大橋の完成につきましては、これにつきましては、平成14年秋に着工されておまして、概ね10年をめぐりに完成する予定ということで、24年度というふうに書いてございますが、こういった新湊大橋というものが完成することになります。それでこれが新湊大橋の完成のイメージでございますが、絵が多少小さいかもしれませんが、全長が約3,600m、主塔の高さが127メートルありまして、たとえばライトアップされるということになれば、山間の方からも見る事ができますし、まさしく新湊市、新湊、射水のシンボリックな存在になるかと思えます。

次に、全天候型の自転車・歩行者道でございます。これにつつま

しては、車道の下に設置されており、安心していつでも通れるよう整備されております。

一応さっと説明させていただきました。新湊の現況としては、こういった状況でございます。以上であります。

続きまして、皆様の資料の中に新湊みなとまちづくり方策の概要資料2というものがあるかと思えます。横のA4で、横のページになっているかと思えますが、こちらのほうをご説明いたしたいと思えます。

まず、この概要の部分で、左側の部分で、まず基幹的な交通体系の整備という部分があります。これにつきまして、今ほど説明いたしましたのが、新たな交通路の対策、平成17年、上海便等がございます。それと東海北陸自動車道の全線開通、平成19年を控えております。新湊大橋の完成これを平成24年、北陸新幹線の開業平成26年ということでこれらの基幹的な交通体系がだんだんと整備されてまいります。ここでやってくるのが環日本海時代の到来、そしてまた観光客からの期待、観光客が来る機会が増える、それと逆に言えるのがストロー現象への対抗。それと都市間競争の激化が考えられるということになります。

そして、魅力の無い所は、なかなか生き残れないよということになってまいります。

ここで新湊市では、ここの右側の部分に移りますが、じゃどうすればいいのかということで、東西両埋立地、海王町・海竜町の土地利用の方向性を提案、そして、海王丸パーク周辺の賑わいを市街地へどうやって波及させるかの取り組み。万葉線とかコミュニティバスなどの2次・3次交通体系の充実。あと最後に新湊固有の観光資源の保全、たとえば内川の景観とか、福祉などこれらを検討してもらおう為に、新湊みなとまちづくり方策検討委員会を設置。これが、平成16年度に検討委員会を設置しており、一年間協議してもらいました。その中で打ち出されたのが、新湊みなとまちづくり方策というものでありまして、第一段階として大橋の完成前、第二段階として長期ということで、事業期間を大きく分けてございます。その中で海王町の土地利用の方向性といたしましては、賑わいのある交流空間として、二番目には、海竜町の土地利用の方向性といたしましては、近未来を考えた高質空間というもの。あと、臨海部と今ほど言いました海王町、海竜町と臨海部と中心市街地との連携の方向性ということで各地域の資源を活かした連携による一体的で活力あるみなとまちの形成ということで、このみなとまちを形成していこうというものであります。とりわけ特にこの計画につきましては、ハードに目がいきがちなんですけど、市民、企業、各種団体等で実施していくことのできるソフト事業の方も多く記述されております。

こういった方策をどう実現していくかということで、下の矢印の方になります。方策の中では、新湊みなとまちづくり推進委員会の発足というふうに書かれております。これにつきましては、いわゆるこの新湊みなとまちづくり戦略会議というものでございます。皆様に委員となってもらっているこの戦略会議のことです。この中におきましては、環日本海交流のゲートウェイとしての機能を集積、地域経済の活性化、地域のイメージアップ、住んでみたいまち、訪れてみたいまちの実現、射水市全体の発展の牽引役へということ、あと地域が抱える問題への対応ということで戦略会議で戦略会議の検討月下におくべきか、まちづくり実践活動といったものが、今ほど言いました候補につながっていくものと考えております。以上であります。

続きまして、資料の3の方をご覧ください。新湊みなとまちづくり戦略会議設置要綱というものがございます。読み上げさせていただきます。

(設置) 第1条

海王町、海竜町における土地利用、及び海王町、海竜町と中心市街地との連携の方向性等について取りまとめた新湊みなとまちづくり方策に掲げる諸費用の推進、及び環日本海交流のゲートウェイとしての機能が集積した活力あるまちづくりの推進を図る上で必要な戦略的資格を立案する為、新湊みなとまちづくり戦略会議、以下(戦略会議)というを設置する。

(所管事務) 第2条

戦略会議の所管事務は、次のとおりとする

- ① 新湊みなとまちづくり方策の周知広報に関する事。
- ② 新湊みなとまちづくり方策に掲げる事業の実現に向けた週報等に関する事。
- ③ その他、新湊みなとまちづくりに関する事。

(組織) 第3条

戦略会議は、次の掲げるものをもって組織し、市長が委嘱する。

- ① 学識経験者。
- ② 公共的団体の代表者。
- ③ 市長が特に認めるもの。

(委員長) 第4条

- ① 戦略会議に委員長をおき、委員長は、委員の推薦によって定める。
- ② 委員長は、戦略会議を代表し、会務を処理する。

(会議) 第5条

- ① 戦略会議の会議は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

② 委員長は、必要があると認める時には、会議に構成員以外の関係機関の職員の出席を求めることができる。

(庶務) 第 6 条、

戦略会議の庶務は、新湊市企画総務部企画情報課において処理する。

(補則) 第 6 条

この要項に定めるもののほか、戦略会議の運営に関し、必要な事項は、委員長が戦略会議に諮って定める。

補則、この要項は、平成 17 年 9 月 14 日から施工する。

以上であります。

事務局 : それでは、続きまして、資料 4 の方から順にご説明を申し上げたいと思います。ここまでですね、わりとそのマクロの視点といいますか、大きな視点で説明してまいりました。ここからは、少し細かい部分について若干ご説明をしたいと思っております。

では、お手元の資料 4 それからこちらの画面の方を見ながらお聞きいただければと思います。

では海王町、海竜町の現況は、どのようになっているかということでございます。こちらが航空写真でございます。

この辺りが海王丸パークでございまして、それからこの辺が、臨海野鳥園いわゆるバードパークでございます。それからこの部分に駐車場が今整備されております。あとですね、この細長い地面につきましては、これは、新湊漁協さんが所有していらっしゃる地面でございます。あと、この辺りにですね先日、客船“飛鳥”も来航いたしました。旅客船バースが出来ております。あとですね、この辺りの地面は、これは新湊市の所有でありまして、集合住宅が建設されていっております。

これが、図面でございます。特にですね、この赤い部分でございますが、この赤い部分、先ほど駐車場のご説明をさせていただきましたが、本来の目的としてはですね、駐車場利用ではありませんで、交流拠点用地という名前が付いてございます。つまり、交流の拠点となる為の機能がここに本来は立地するべきであるといった感じでございます。

これが、海王丸パークでございます。この赤い部分、実際ですねこの赤い部分全てになんといいますか、施設が張り付いているわけではありませんで、後から、少しご説明させていただきますが、この現在駐車場がある北側の部分にですね、ラジコン広場があったりするんですが、ラジコン広場とですね、こちらのバードパークの間の地面とかは、まだ整備がされてございません。草が生えているといった状態でございます。これが、今ほど言っております駐車場でございます。こちらのほうが、新湊観光船の切符売り場でございます。

す。

こちらがですね、まあ、しろえびとかの御飯が食べられるあいの風食堂という部分でありまして、ここに車が駐車しているわけですが、本来ここは駐車場では無くですね、もう少し交流の賑わいを投資する格好で、もうちょっと施設の張り付きを促進する必要がある場所であります。これが動画でございますが、これが日本海交流センターですね。ずーっと回ってきましてここがラジコン広場であります。ずーっと西の方にふっていきますとこの部分はですね、一応県が進めました日本海ミュージアム構想というのがございますが、日本海ミュージアム構想の中では、日本海博物館といったものが、予定していたというような格好になっております。実際は、このように空き地になっているといった格好でございます。それからこちらの方が、旅客船バースでございます、この写真は、つい先日の飛鳥が来航した時の写真でございます。こういうふうに着陸しますと観光バスが、ずーっと並びまして立山黒部ですとか、いろいろな県内の観光地へ行かれるといった格好になっております。それから、ここにちょっと小さくテントが見えますが、ここですとかまぼこですとか、お土産品ですとかそういったものの販売を臨時的にやったりしていらっしゃるという状況でございます。

ちなみにですね、新湊みなとまちづくり方策という冊子がございまして、この中ではですね、やはり特にですね、みなとまちづくり方策の18ページ当たりのA3の部分を見ていただければおわかりかと思っておりますが、やはりターミナルですとか、そういったものを提示しなければいけないんじゃないかと、そういったふうな意見が出ております。

続きまして、こちらはですね、海王町団地でございます。こういったふうに非常に景観にマッチした色合い集合住宅が、ぽつぽつと建ってきております。東側この辺につきましてはわりと立地が進んでいるのですが、西側ですね、わりとまあかなり立地進んでございませぬ。で、これを動画でご説明したいと思うのですが、今これがですね、こちらから見ている部分、ちょっとわかりづらいですけど、この辺に新湊かまぼこさんがあると思っていただければおわかりかなと思うのですが、これをずーっと見ていきますと、この緑色の部分ですね、これは別にサッカー場ではなくて、未利用地でございます。ここに一棟建っております。で、これが二上山でございますね。こういったふうに、かなり未利用地が広がっている状況、わりとこう上から見ますとですね、緑がいっぱい非常に緑のじゅうたんって感じがするんですが、これ大橋の橋脚でございますね。こういった感じになっております。ここが野鳥園でありまして、この部分がいわゆる未利用地になっております。こういった状況になっており

ます。で、もう少し近づいた視点で見ますと、やはりですね、歩いてみますと腰くらいまでの草が生えておりましたり、それから、こちらの写真ちょっと見づらいんですが、奥の方になんか遊具みたいな物が置いてあるんですね、これとかですね、ただそこまで草を掻き分けて行くのが非常に根性があるといったような状況になってございます。

それから、こちらの部分でございますが、これは、先ほど申し上げた通り新湊漁協の所有地でございます。このように網干し場になっていたりですね、それから、やはり草などは伸び放題ですね、ちょっと近寄り難いなといったような雰囲気になってきております。それから、海王バードパークでございます。これは、なかなか人気があるのか、ないのか、ちょっとわからないのですが、実際に行ってみますと非常に良い雰囲気です、いいと思います。また是非遊びに行っていたきたいというふうに思います。

続きまして、こちらが海竜町でございます、ここが海竜スポーツランドでございます。それから、この辺りがですね、神通川左岸浄化センター、いわゆる下水道処理場が、こちらにきております。

それから、この辺りにですね、今、元気の森公園を建設してございます。また、こちらの方はですね、近畿大学の水産研究所、それから、堀岡の養殖漁協さん、あとこちらの方はですね、いわゆる海竜町団地、あとこの辺に堀岡小学校がございまして。現在この部分につきましてもですね、宅地造成といいますか、そういった格好で進められるというふうに聞いてございます。このような格好になっております。これが海竜スポーツランドでございます。それからこれですね、元気の森公園です。一週間前くらいの写真でございます。こういった丘があったり、また、パークゴルフ場があったりと、11月1日に供用が開始されると聞いております。

これですね、海竜スポーツランドの一番高い展望広場から見た眺望でございます。このように、富山湾が一望できます。それでこの部分が、いわゆる下水処理場です。それから、ずーっと下りてきまして、ここが堀岡の火力発電所ですね。こういったふうにここに、大橋の橋脚が見えてきてございます。それで、このような状況であるというふうにご理解いただければと思います。それから、こちらの方が、神通川左岸浄化センター、それから堀岡小学校、続きまして海竜町の住宅団地、それから堀岡の養殖漁協ですね。あと近畿大学の水産研究所でございます。ちなみにですね、この未利用地がありますが、新湊みなとまちづくり方策の中ではですね、この部分につきましても、クリーンエネルギー等の研究施設的なものを誘致してはどうかといったような意見が出されております。この現地ですね、これが、堀岡側から見ました海王丸でございます。ずーっと北

の方へカメラを向けて行きますと、この辺に堀岡の養殖漁協があって、この奥に近畿大学水産研究所がございます。やっぱりこの立っている部分、カメラがいる部分にそういった太陽光発電ですとか、風力発電ですとか、そういったものもですね研究を進めてはどうかというふうな意見が出ております。あとは、一面草がバーッとはえているような、これが大橋の橋脚でございます。

続きましてですね、海王町、海竜町は、これでいいんですが、中心市街地との連携はどうなっているかといいますと、まず万葉線が走ってございます。ただ海王丸駅からですね、帆船海王丸までは、500m位離れておりますので、これを延伸するのかなのかという問題がまずあります。一応、方策の中ではですね、それを検討してはどうかというようなことも提案されてきております。それから、コミュニティバスにつきましてですね、この茶色い封筒、新湊・放生津線がですね海王丸パークを結んでいますので、ひとつの足になっているかといった格好でございます。

それから、これはですね徒歩と自動車の動線でございますが、ここが海王丸パークで、普通はたぶん県外の方は、こういうふうに入って来られるというふうに思うんですね。それで、新湊市街に行く場合は、こういう感じで、八幡町の方を通って行くのか、放生津橋の方を通って行くのか、もしくは、こういった感じで漁協の方を通って行くのか、まあ2種類あるのかなというふうに考えております。これがですね、漁協の前の方に通じる道路、ようはあの大橋のループ部分をくぐっていくような格好になります。

ここはですね、車の目から見ますとかなり美しく見えるのですが、歩いていこうとすると、ちょっと危険な道といいますか、草がはえていたりして、そういった問題があるのかなと、それから、こちらはですね、車の目線から見た様子でございます。海王丸パークから漁協の方へ走ってまいりますと、こういったふうにはず一と動いてまいります。この辺に見えているのが、新湊漁協でございますね。ず一と来ますと、ここに青い標識、看板が見えまして、これは何かといいますとですね、もう少し近づきますと、こちらが新湊漁協ですと、いう看板がでております、右側ですね。このまま真っすぐ進みますとですね、ここにスロープがありますね、ここを上って行きますと八幡様なりがあるわけなんですけど、ここには、それらしい案内表示は、無いわけでありまして、普通のドライバーであれば、通り過ぎてしまうのではないかなといった格好です。一步そこを奥に入りますとですね、まあ、こういった古式ゆかしい風景を見ることができるといった状況です。同じようにですね、これは、神楽橋周辺の風景でございますが、こういったものも、車からはなかなか見ることができないものですから、何か案内表示をしなければ、人

を引き込むことはできないのではないかと、ひとつの問題提起で
ございます。

続きまして、海王町、海竜町の現況の次にですね、資料5の方を
ご覧いただきたいと思うんですが、資料5につきましては、新湊み
なとまちづくり方策が策定されてから、これまでの経過を時系
列で紹介してございます。また、お読みいただければというふう
に思います。

続きましてですね、資料6についてご説明を申し上げたいとい
うふうに思います。まず当面の課題及び今後のスケジュールでござ
います。

当面の課題としまして、(1)議事録の公開について、とございま
す。これにつきましてはですね、今のところ、委員の方のご発言につ
きまして、匿名でですね、ホームページ上にそのご発言を公開して
はどうかというふうに考えております。これをまた、後ほど、ご披
露いただければというふうに考えております。それから、

(2)でございしますが、みなとまちづくり方策のですね、22ペ
ージをご覧いただきたいのでございしますが、みなとまちづくり方
策のですね、22ページのほうに、実現化の方針という部分がござ
います。それでその(2)にですね、第1段階に向けた取り組みと
ありまして、本方策の実現化に向けて第1段階に位置付けられ
ている事業の中から、活性化の起爆剤になりうる事業を先導的
事業と位置付け、実現に向け集中的に推進を図ることが重要であ
る。さらに、比較的早急な採用可能な観光モデルコースの設定、
案内板整備、市民参加による観光案内への取り組み、及び環境教
育と一体的な緑化活動や清掃活動、この4つについては、速やか
に取り組む必要があるというふうにいわれてございます。それで
もう一度、資料6の方にお戻りいただきたいのでございしますが、
今ほど申し上げましたように、ハード整備はもちろん重要なんで
ございしますが、まず、やるべきことがあるだろうといった格好で
比較的早急な対応が可能とされている事業への取り組みとしまし
てですね、海王丸パークを起点とした観光モデルコースの設定と
いったものを速やかに進める必要があるのではないかと。またで
すね、それは、自動車によるものなのか、もしくは、歩きのなか
か、またまた公共交通なのか、それから、遊覧船、自転車なのか、
そういったものを組み合わせるものなのか、いろんなケースを考
える必要があるのではないかと。また、港湾観光、産業観光、都市
観光とございます。特にですね、真ん中の産業観光という言葉は、
昨今非常によく言われております。特に、名古屋では、非常に盛
んに推進をされております。つまり、この辺りにはですね、新湊
かまぼこさんあたりが、かまぼこの製造過程を説明しているとい

ったことですね。つまり、簡単に言えば工場見学といった格好で
ございます。新湊市の場合にはですね、富山新港の背後地に非常に
たくさんの企業が張り付いてございますので、そういった可能性
を、産業観光の可能性を探ることが必要なのではないかといた
たことを問題提起をしております。それから、もちろんモデルコー
スを設定すればですね、それに基づく案内板の整備がやはり必要
ではないだろうか。そういったことが、海王丸パークを起点とし
た観光客の誘導といった視点で行っていく必要があるのではない
だろうか。それから、続きまして、3つ目にですね、市民参加に
よる観光案内への取り組み。これは何かと申しますと、たいてい、
観光ボランティアさんというのは、いついつここに来てください、
ということをお願いするわけですが、そうではなくて、実証実験
として、ある一定の期間に市民参加を募りまして、常に観光ボラ
ンティアが海王丸パークなりに張り付くといった取り組みでござ
います。それから、今ほどの内容でもご説明いたしました、緑
化活動ですとか、清掃活動そういったものもですね、やはり、児
童、学生の皆さん、市民の皆さん、それから企業の皆さんをいか
に巻き込みながら進めていけばいいのか、そういった部分をやは
り検討していただく必要があるのではなかろうかということでご
ざいます。それから、(3)でございますが、先導的事業の実現に
向けた取り組みとございます。これは何かと申しますと、もう一
度みなとまちづくり方策の22ページをご覧くださいんですが、
22ページの緑色の部分に、みなとまちづくり方策検討委員
会の方から、ここに書いてある事業が先導的事業になるだろうと、
いうふうに言われております。特に海王町ではですね、物販施設、
それからレストラン、オープンカフェ、温浴施設、それから体験
型宿泊施設、こういったものをまず誘致することによって、波状
的にこのあたりの土地利用が進むのではないかと、いうふうに言
われております。そのためにやはりこの方策そのものPRをする
必要があるだろうし、それから、もう少し機運が盛り上がってこ
ればですね、事業化の手法ですとか、それから事業主体ですとか、
それからその施設の規模ですとか、そういったものを具体的にこ
の戦略会議においても提言をしていけばいいのではないかと、い
うふうに考えております。それで、その下の米印でございますが、
これは委員の皆様をお願いをしたいと思うんでございますが、是
非このみなとまちづくり方策のですね、PRする機会を我々に提
供をしていただきたいと思います。それは別に今この場で言っ
ていただく必要はありませんが、何か機会があれば、是非呼んで
いただきたいと思います。

続きまして、今後のスケジュールでございます。これはあくま

で案でございまして、これがいいのか、どうなのかというのは、ご議論いただく必要があるかと思いますが、まず第一回戦略会議につきましては、右の内容の通りでございます。今のところ、今年度中にもう一回戦略会議を開きたいというふうに考えてございます。この戦略会議が、1番、遊休地利用の具現化に向けた検討、それから、観光モデルコースの設定及び案内板整備に向けた手法の検討、つまり学生さんですとか市民ですとか、企業の皆さんをどのように巻き込んでこの様なものを整備していけばいいのかということでございます。

それから、続きまして3つ目、これは講演とございます。戦略会議におきましては、第1回は別としまして、後の全ての会議におきまして毎回講師をお呼びしてですね、講演会を開催してはどうかというふうに考えてございます。それから、第二回の会議を経ましてですね、では実際にまちづくりの活動を行っていくというのはどうなのかと。まず観光モデルコースの設定、それから、案内板の整備について、市民のご意見を聞くと、いう作業をしてはどうかということをご提案してございます。裏のページへ行っていただきまして、後はですね、3、今後の検討課題等（案）といたしまして、左側に今後の検討課題、右側にそれに対応しましたまちづくりの活動例というふうに書いてございます。たとえばですね、真ん中の方でございますが、内川周辺に人を呼び込むといったことで、ある一定期間ですね、国土交通省さんの真似なんですけど、ビジット ウチカワ キャンペーンといったものを実施してはどうか、それから、いろんな市民参加のですね、活動を提案して、それを実際に行っていくってはどうかと、いったことをここでご提案してございます。これで資料の説明を終わります。

委員長 : どうもありがとうございました。大変盛りだくさんな内容で、一気にお話していただきましたが、まあここに住んでおられる方がほとんどなものですから、こんなふうに動いているということと、場所との関連なんかもお分かりだろうと思うんですけども、まあいろいろな文書をこれから目を通してですね、少しずつ今日の確認しながら、意見を出していただきたいということで、今からの予定なんですけどね、3時にこれは実際の現場を見る方向になりますので、30分ちょっとですね、それであの早急にしなければならないことをまずあたって、その後せつかくこの港の整備でですね、今までずっとやってこられた、今も大橋中心にですねやっておいでる国土交通省の方もこられている、それから港湾管理者の港湾課からもこられておりますので、地元新湊でこんな会議が発足したということに対して、思いを委員の皆さんにちょっとお話、お話ってより

も期待を述べていただければとありがたいなど。

じゃあ、最初にですね、資料6の当面にしなければならぬことのお話をしたいのですが、議事録の公開というお話が先ほどありました。ここで、戦略会議委員の皆さんがお話いただいたことをですね、なんだかの形で市民にお伝えする必要があるんじゃないかと思うわけですよ。ただ、伝え方なんですけども、たとえばケーブルテレビを入れてありのまま映すということになると、ちょっと発言も慎重になっちゃうし、いうことで、第一段階としてここでどんな話がなされたのかということは、名前を出さないで積極的にPRさせていただきたいというのが、最初の議論の表題ということです。この委員会の承諾を得ないとなかなかできないものですから、いかなものでしょうか。反対という方は。特に反対もないようですが、とりあえずそういうことで、名前を出さないで、こういうことが戦略会議で話し合われているということ。それが1つ。

それから、もう一つ、先ほどですね、かなり長い時間をかけて、そうとう議論をしてこういうものができたんですね。これを忘れないように、市民もそして新湊市内にある企業も、よそからきている学生などにも、いろんな機会を捉えてお話をしたいし、委員の中でもわかっている、大代さんなんか委員だったですから、説明できる人もいるし、市役所の人もある。ぜひそういう機会をどんどん委員の皆さんに提供いただきたいという点については、ご了承いただけますか。ぜひ、そういう方向で、こんな場所でこんな会合があるから話をしろということで、声をかけていただけたらと思います。

それでは、ちょっと戦略会議に対してですね、先ほど市の説明がずっと長かったものですから、いっぺんに国と県のほうの期待を伺ってから、あと討論に入ろうと思います。

アドバイザー：北陸地方整備局、今日は所長の代理ということで参りました。今ほど委員長の方から期待という言葉がありましたけど、なにも傍観者として後ろでじっと見ていようとは、さらさら考えていませんで、積極的にですね、なんといいましょうか事務局の方々と足並みをそろえていくつもりですので、よろしく願います。

ちなみにですね、2週間ほど前になりますか、事務局と一緒に本省の霞ヶ関のほうへ行ってきて、このまちづくりについて新湊はこんなことをやっているぞと、こんなすごいことをやっているぞ、またこんな高い志をもってやっていますよということを本省の港湾局の幹部の方にですね、報告会を行いましてですね、その際に事務局の方が一生懸命説明されて、皆さん感動しておりました。単なる感動というだけでなく、これから本当にこんなにすばらしいまちを創るんだぞということを、また本省のほうにもご報告したいと思っています。

それと今日、この場でいろいろこれから議論があるかと思いますが、これも私がただ単に聞いていただけではなくてですね、ちゃんとしくみがありまして、今日は後ろのほうに我が広報担当がずっと座ってじっとしておりますけども、広報担当のほうでは今日の内容をこと細やかに書いたものを本局の方に速やかに報告するてはずになっていますので、この会合の内容は新潟のほうにはすべて届くようになっていきますので、どうぞ活発なご議論をしていただいて、また、細かなところで国のアドバイスが必要であればいつでも言っていただければと思います。あと、1つだけですね、委員長に提案みたいなものをはじめの段階で言うのも失礼なんですけど、先ほど、市の提案の中で産業観光みたいなものをおっしゃっていましたが、私ども県内の港を利用する企業を訪問いたしております、港づくりの企業ヒアリングをずっと継続しております。その中にですね、今度は新湊市さんも入ってですね、せっかくだから、私どもは港のハード面を作るための企業ヒアリングというものを前面に出していますが、市の方も一緒に来ていただければ観光面でアドバイスをいただくなり、そういった取組にも直接入っていただければと、いただければというよりも、そういった場をつくりますので、ぜひ参画していただければと思います。これからの動きに対しても、私どもも一緒にがんばりますということを申し上げまして、以上でございます。

委員長 : ありがとうございます。委員の皆さんへ今のお話を念頭にということをお願いしたいと思います。すでに企業訪問ということをして国のほうが精力的にやられていたと、そういう意味で皆さんの力でちょっと動いていただくと実証実験的なことでもできるんじゃないかと。それともう一つ、新湊大橋が今建設中で、佐川さんに相当ご尽力賜ってですね、新湊市の助役さんも委員になって、名前は新湊大橋の産業道路となっていますが、私はちょっと食いつきましてね、地元から見ると産業道路より市民道路というほうが重要だと、実際はかなり有効活用できるよう、地区に住んでいる人たちが使いやすい道路といいますか、場合によっては、展覧会、いろんなものを飾ったりできるし、寒さ対策もあるし、それからお年寄りのためのエレベーターとかいろんなもの、そして眺めがいい土台もある。かなり、この戦略会議の設定条件というのは、できあがったものを見ないとまずいんですが、ここではですね、一度そのシュミレーション、歩いていった場合どんな風に見えるのかというのを作ってあるんですね。ですから、時期を見て委員のメンバーの方にも見ていただいて、それをどのように使ったら盛り上がるかとかですね、そういったのもいいんじゃないかと付け加えさせていただきます。

では、次に県の方をお願いします。

アドバイザー：県の港湾課から参りました。この新湊地区の東西の埋立地の利活用は県として重要な課題と考えております。西埋立地は平成5年、あと東埋立地は県のほうで平成10年に完了しておりますけれども、現実には事業がなかなか進まないというようなことになっております。今後、新湊大橋が完成すればですね、東西の埋立地がつながるといことで、東西の一体化となった土地利用ということが、うちのほうの課題と考えております。ただ、いろいろと土地利用につきましては港湾計画や公有水面、埋立法上の問題がありまして、この戦略会議です、いろいろなアイデアが出てくるとは思いますけど、その中でも法的な課題等をすり合わせながらいろいろと検討していきたいという風に考えております。ぜひ皆さんから活発なご意見を期待しております。それとあともう一つですけれども、東西線、新湊大橋を造るときですけれども、周りとの景観というものを重視して新湊大橋の計画も立てておりますので、そういう点も踏まえてこの土地利用計画を考えていただければありがたいと考えております。以上です。

委員長：ちょっと加えておきますと、県の港湾課、港の管理者ですね、新しい動きとしてはですね、新聞でもこの間私読みましたけれども、埋立地の一定の場所をですね、いわゆるお役所経営批判から一歩出る前向きの動きもされて、民間業者をですね、その運営をいろいろなところの運営で公募したり、そういう新しい動きが港から起こっていると、新聞では指定管理者制度という言葉で載っておりますが、富山県はやらないのかなあと思っていたら、そういうことで、全国でも早いのかなあ、乗り出していることをみるとですね、やっぱり富山新港を中心とした運営・経営というところに力を、新しい形で力を入れているんじゃないかなあ、そういう意味では我々が動かないというような思いが強い。ということで、あと丁度25分です。今日は第1回目ということがあるものですから、先ほどいろいろ説明したこと、あるいは、これからの思いを皆さんにお話いただきたいと思ひます。

委員：ご氏名ですから。私前回もいっていたと思うんですが、今、橋もできると、その中で、やっぱり橋から旧まちにくる、言ってみれば元の海域ですね、波返しを堀岡みたいにかわいらしくして道路にしてほしいなあと思うのが第1点です。そうしないと、どっちかというところ、あの辺が国有地があったり、八幡宮の土地であったりといことで、半ば公的なようなところで、手付かずのところもありますし、それからもう一つ、向こう側まで都市計画道路の指定も受けているんですね。高周波前から。早急に見直すなら見直す、どう見直すかというのちょっと問題はいろいろあるんですけども、やる必要があるんじゃないかということも思っておるところです。それともう一つ

は、内川遊歩道、かなりきれいになったけれども、実は海王丸パークにストレートでいけないということで、これはまあ、地図で言えば一番いいんだけど、高周波の後ろずっと、あこはかなり内川が結構広いんで、公有水面をちょっと埋め立てて、あこへ向こうまでずっとつけると、海王丸パークから歩いてこれるようになる。そのことも重要でないかなと今思っております。もうひとつ言わしていただければ、密集市街地、今富山県では新湊だけが密集市街地という指定をもっておりまして、実は奈呉、中町というところ、海岸口は全く小さな家で、今住まいをしていないところが結構ある。あれの問題を早急にどうするのか、あこも国有地があるので、やり方によってはできると私なりに役所に提案もしていますが、あれも早急にどうするのか、道筋をつける必要があるなあと私は思っています。以上です。

委員長： 私もした範囲では、内川の問題ね、私も長くさせていただきましたが、ようやく観光のほうに実現に向かっていて。今度はスピードアップでやりたいですね。かなり時間がかかっていますから。

雨宮委員長： 次の方、まちづくり方策についてなんかあればと思いますが。

委員： 青年会議所としてはですね、今、旧の射水のほうと統合したばかりです。この港を中心としたまちづくりについては、ゼロスタートみたいな感覚でおるわけで、最初に委員長からこのまちづくりについて、これまでの経過をメンバーに知らせてくて時間を設けたんですけれども、その中では、説明をいただいて自分たちが青年会議所で姉妹青年会議所を続けてきたヒューマンネットワークを活かしたことで、まちづくりをこれから考えていければなあという観点で、ちょっと今ランドデザイン的には入っていない方向で話し合ってきたんですけれども、これから実は自分たちとしても具体的にこんな形になればいいんじゃないかなあということを考えていければなあと思っている段階で、今提案できるところはないんですが。

委員長： ぜひ、この場で皆さんの組織で検討した「これをやってみたい。」というものを出していただければ。相当若い人の集団で活力がありますから。続いて、新湊で唯一の高等専門機関で、富山商船高専ですけれども、私もいたことがあります。ただ、地元の人から見ると、商船高専は商船学校、船乗りの学校だというイメージで、どうも何十年前か 50 年前か 100 年前かわかりませんが、その時の位置づけになっているような私は感じを受ける、もうちょっと現実の学校というのは国際流通学科や工業系だとか、就職も進学もそうとういいということですので、私は今付属の小学校の校長も兼任ですが、付属の中学校では、かなりここんとこ受けがいいんですね、落っこちると。ですから、かなり変化をしておりますね、そういった意味で私は新湊自体で学生が卒業研究をする、まちを歩いてみたりして、

学校自体も取組をしているんですが、こういう機会に責任者の舘先生にも動いていただきたいという思いもあるんですが、舘先生も思いがありましたら。

委員 :国際流通学科もできまして、今年でちょうど10年目を迎えました。もともと船乗りの学校で発足して来年100周年を迎えるわけですが、海事造船だめといったときに学校自身生き残りをかけて大きく学科増やったと。それで最初は技術立国ジャパンということで、電子とか情報といったところに走ったんですけれども、これもなかなか難しくって、20年くらいの波で今かなり危ないと。それで10年前、もっと前なんですけれども、中沖知事のとときにですね、もっとも富山県は対岸を見なければいけないということで、それで、対岸の例えばロシア、中国、ハングル、そういった言葉を使いながら、ビジネスで発展できる人材を作ろうと、その時に雨宮先生が学校にいらっしゃったんですが、はじめは富大でやろうという考えがあったようですが、大学は能書きばかりであんまりいい人材を作らんということで、商船高専は船乗り、そして海運そして貿易というキーワードの中で人材を作ればいいんじゃないかということで、うちの学校に設置されました。それから10年目を迎えているんですけども、私自身学科長をやっております、一番教員にしているのは、商船高専の国際流通学科であるということで、常に海、船、港というものを意識なさいと。それから、あとは貿易のスキルといいますか、ツールや語学などを使って、意識的に海、船、港というものを使いながらやるんだぞと。それがなくなってしまうと、単なる商業科になってしまうと。特徴がわからなくなってしまうということでやっております。それで、5年生まで200名の生徒を抱えていますから、まず最初の1年は地元を知ろうということで、私の商業の授業の中でやっております。何をやるかといいますと、特定重要港湾ということで、学校からすぐそこに新港があるわけですね。私は学生にいつも言っているのは、港を見れば地元で何を作っているのか、どういう会社があるのか大変重要なんだぞ。ということで、港へつれてきて東水路、公共岸壁、多目的埠頭ですね、あそこらをまず見させています。それで、まず対岸とか外国に興味を持たせ、富山新港をみております。それから、その中で商船高専の歴史というものも教えていかなければならないんじゃないかということで、地元の北前船主が活躍してきた内川を通過してですね、今の例えば海王丸パークといったところで新湊市自体がまちおこしで内川と海王丸パークをセットにしながらか、どういう風にまちを活性化しようとしているのか、まず目で見させてですね、それで若い学生たちにお前たちだったらこれ以上にどういったまちおこしが考えられるかということ、ずっとレポートで出させています。非常に斬新なアイデアも出てますし、学生からまずでてくるのは、内川に便所がな

いと、もう一つはハンディキャップを抱えている生徒もいますので、船に乗せますと内川構想とバリアフリーをどのように考えていけばいいのか、もっともっと一般の人、ハンディキャップの人魅力ある内川にするにはどうすればいいのかなど、考えておるところです。それから、学年が進行するについて、卒業研究でも、学生たちはフェードアップしていろんなどこを調べています。それで、先ほど市のほうから説明がありましたけれども、パークのほうで海鮮まつりとかたまにありますけれども、2〜3年前に氷見の海鮮館との比較をやっていました。結果比較してやはり見ると、私だったら氷見へ行くと、新湊はまだまだ魅力がないんだなあということが出ております。従いまして、私が委員として参加させていただきましたので、私の意見、そして学生の意見も踏まえて参加させていただきたいと思えます。

委員長：時間を見たらあと12分しかありません。お話いただきたい方は5人いますが、これから始まるわけですからね、また次回もたくさん話していただくということで、2分程度ですね、今日の会議は自己紹介を兼ねて一通り話していただくということで。

委員：私は仕事柄、外国人の方と会うことが多いんですけども、外国から来て富山県に来ました、新湊に来ましたという時にどういうところへ観光に連れて行くかという時にまず思いつくのは海王丸パークなんですよね。海王丸パークに行っても、実際15分か20分くらいしかもたないのが現状で、そのあとじゃあどうしますか、どこに行ってみたいですかといった時に、新湊のまちの方に連れて行って上げましょうとは、正直言えない。でも、この会が進んでいって、新湊の市街地がどんどん元気になって外国から来た人でも楽しく歩いていける場所になればいいなと思えます。

委員長：ありがとうございました。ぜひ、そういう方向でのご意見をお願いします。では、次に商工会、商店街関係、TMOの関係になると思うんですが。

委員：今TMOというお話がございました。平成13年に市当局のほうにおかれまして、中心市街地活性化基本計画というものを策定されまして、私どもそれを受けまして、平成14年にTMO構想を策定したわけがございまして、私は委員長さんの冒頭部分のお話を聞いて非常に共鳴した部分は、せっかく報告書をつくって、報告書のための報告書ではだめだというのが私の全信念でございまして、TMO構想で17のメニューを用意しました。

短期、中期、長期と、そして私ども長期と位置付けの中で、ここで戦略的事業の中で市街地の事業の中で、川の駅構想、それから内川の観光遊覧船というものを長期として位置付けをしておったのですが、まず1つは市内の有志の方で観光船につきましては、6コースを設定いたしまして、今、富山新港遊覧と内川遊覧ということで、この24日

ですか、運行を開始したようで、大変心強く思っています。また、川の駅構想につきましても私どもNPO法人ということで、水辺のまち新湊ということで、これにつきましても今月の15日に認可を県からいただきまして、本格的な事業展開になるわけですが、この川の駅構想と遊覧船とを密着させてですね、海王丸パークに先ほどお話ししましたように年間70万、80万の観光客をですね、今は素通りということでありまして、それをですね何とか市街地に誘客しようと一生懸命やっとならざるを得ないわけでありまして、今のところ民という形でやっておりますが、やはり行政の力も借りていかなければならないということでございます。それともうひとつ海王町の集客機能の中で港湾施設とかいろいろありますが、漁業協同組合さんのほうで漁業会館ですか、また水商連さんの方で海鮮館ですか、まあいろいろお話があるのですが、なかなか進まないようですが、少々課題もあるようですが、なんとかこれをすることによって、海王丸パークと併せていろいろな形でいい知恵をだしていければなと思っております。

委員長：ぜひTMOで検討していた内容の中でもここで出していただいて、一緒にできるものはおおいにやりたいと。同じ商店連合会ですね、商店街ですね、やはり海王丸パークの賑わいと、こちらが離れてしまうことが一番困るわけで、どうやっていくかということが、どうぞ。

委員：商店街の役員をしておりますけれども、商店街はどこも同じなんですけれども衰退、特にここ新湊地区、放生津地区の旧市街地は年とった人がたくさんいて、購買力が年々下がっていくという非常に苦しい立場です。新港大橋ができたり、海王丸パークができて観光客の流れをなんとかできないかなと思っておりますが、商店街は日々の生活の中で商売をやっておりますけれども、観光ということになりますと、最近そうやってきたもので、新しい商売という形で進めていかなければならないのではないかなと思っております。それをするのにしても、すぐにできるわけではないですから、皆さんからたくさん聞いて少しでもそっちに流れるように商店街では話していきたいと思っております。いっぺんにどうにかなるというものではないので、少しでもなんかいい方法があればなと思っております。

委員長：先ほどの資料で、90パーセントが富山市と高岡市に買い物に行く事実を少しでも挽回できる戦略としてなにか行いたいですね。

委員：観光客がくる目玉になにかほしい。お金を落とすということになれば、宿泊施設が一番いいと思いますね。宿泊すると、泊まってそこにいるのではなくて、まちを歩いてみようかとかいろんな行動ができるから。宿泊施設がなかったら高岡行って泊まるか、富山行って泊まるかということではほとんど素通り。宿泊施設を作って賑わいを。

委員長：また提案をお願いします。次をお願いします。

委員：今、宿泊施設とおっしゃいましたが、新湊に海辺に安くて公的な施

設があれば、泊まっていたいただいて、朝に夕に景色をみていただいて、大きなごちそうになると思うんですね。それと、女性の皆さんで話しているんですが、せっかく観光客がきても先ほどおっしゃいましたように、70万人、80万人来ていただいているのに、お金を落としていってもらわないと新湊は発展しない、新湊全体が6時か7時ぐらいになったら、真っ暗になるんですね。もう少し明るさを取り戻すような施設をみんなで考えたらいんじゃないかと思います。

それと、私がいつもウォーキングコースにしております海辺のコースなんですけど、電灯が全然なくて暗いんですね。それと、先ほどちょっとありましたけど、こちらから入ったらどういう施設がありますよという看板が一切ない。看板をちゃんと出してあげれば、市外から来た人も入ってくれるし、市内の名所も看板で知らせるべきだと、そんなふうに思います。女性の会でも、まずまちが暗いが第一、そして宿泊施設がない、いろんなところから皆さんに来ていただいても、泊まるのは他へ案内しなければならないと、私たちは千曲市と交流しているんですが20～30人とバスで来ていただいても、泊まっていたくところがない。高岡なり、宇奈月なり富山なりに行ってもらって、せっかく落ちるお金がいつてしまう。そんなことで大変残念に思っております。これからそういったことも考えて行きたいと思っております。よろしくをお願いします。

委員長 : ぜひ女性の視点でいい提案をお願いします。最後になりましたが、お願いします。

委員 : 私の視点も入るんですが、富山新港においては、富山港と伏木港の間にあって、富山新港というところが、あのロシア人にいったら、地図が古いものですから、地図上に富山新港が載っていないというのが一つ、船員と話をしてそういう感想を受けたことがあります。富山新港という港をもっとPRしたらと思います。それと、富山新港におきましては、船員の方がまちにでるのは歩いていくことが多いんですね、自転車に乗っていかれる方も多いんですが、港自身も多少は明るくなりましたけれども、港自身に明かりがない、それとバス停など公共交通機関も不足しているかなと思います。

委員長 : ありがとうございます。新湊のまちづくりに参加して、また背後地の企業としてお願いします。以上、自己紹介的なお互いのPRになりましたが、これで第1回目の会合は終えさせていただきます。先ほど案であった第2回目についてですが、委員長の独断ですが、歩くコースといったところに焦点を当てて議論、その前にこういう案はどうかといったものがあれば、どんどん事務局に出して、または私の方までいただいて、次回の会議に備えたい。

それから、講演というのを書いてありましたが、これに関連しながら勉強会もしながらそういう方も呼んでお話を聞いたらどうかという

ことなんです。こういう適任者がいるぞという人がいましたら、また俺がやってやるというのでもかまいませんので、ただし、遠くから呼ぶお金はありませんので。ここまで来ていただいて、ただでしゃべってもらうということで。

委員：検討課題の中で、観光モデルコースが入っていますが、この策定に当たってはどのような形をとられるかわかりませんが、実は私どもTMO構想の一環で、観光コース、散策コースの印刷に入るところなんです。こういうものもあるので、検討されるときには観光協会なども呼んでいただきたい。

委員長：そういう議論するときのたたき台としてでも、またそれは事務局と相談してください。

委員：富山市が市街地に人口を増やすために、いろんな施策をしております。富山市ですてるんですから、私もぜひ射水市もやっぱり富山市に負けないくらいの旧市街地に対する人口の定着策、優遇策を作らなかつたら都市間競争に負ける、ぜひお願いします。

委員長：それでは、第2回目の会議が充実したものになるように、開かれる前に私なり事務局の方に今言った様な形で情報提供をください。

そこで組み立てて会議を有意義なものにしたいと思います。ぜひ、その方向でお願いします。第1回の会議をこれで閉じさせていただきます。

事務局：ご苦労様でした。先ほどお話にもありましたように、先日から観光遊覧船がでておりますので、皆さんに1回乗っていただいて、違った目です内川から見た眺めというものをご覧いただきたいと思います。5分後に正面玄関に集合ということでお願いしたいと思います。なお、お荷物等をもって行っていただきたいと思います。